

# みどりのこえ

秋号  
2015

長野県環境保全研究所

平成27年(2015年)9月10日発行

●飯綱庁舎 〒381-0075 長野市北郷 2054-120 TEL.026-239-1031 FAX.026-239-2929

●安茂里庁舎 〒380-0944 長野市安茂里米村 1978 TEL.026-227-0354 FAX.026-224-3415

URL: <http://www.pref.nagano.lg.jp/kanken/index.html> E-mail: [kanken-shizen@pref.nagano.lg.jp](mailto:kanken-shizen@pref.nagano.lg.jp)

No.51



初夏の花野で咲くカワラナデシコ

## 人がつくりあげた花野が残る開田高原

文・写真 丑丸 敦史

「なでしこジャパン」のワールドカップでの活躍は記憶に新しいところだと思います。この女子サッカー代表チーム名は、野に咲くカワラナデシコ(別名ヤマトナデシコ)の可憐な美しさに日本女性の素晴らしさを例えた大和撫子という言葉から来ています。秋の七種のカワラナデシコやキキョウ、オミナエシなど人の文化と深い関わりをもつ草原生植物が咲く野(草地)は、万葉の時代から花野と呼ばれ、近代まで多くの歌人に好まれてきました。しかし昭和初期まで国土に広くみられた花野はその後、激減し、かつて日本中の花野でみられた植物や昆虫が現在では絶滅の危機に瀕しています。例えばキキョウは環境省のレッドリストに、カワラナデシコやオミナエシも多くの都府県のレッドリストに名を連ねています。

古くから木曾馬の産地として有名な木曾町開田高原の採草地(飼葉をとる草地)には、色とりどりの花にチョウが集まるかつての花野の光景が残っています。開田高原では、「採草地を半分に分け、ある年片方のみ、春先に火入れをし、秋にそこで採草する。もう一方は、翌年の春に火入れし、秋に採草す

る」ことを交互に繰り返す独特な草地管理が行われてきました。どの場所も二年に一度火を入れ、草を刈るのですが、これが健康な馬が育つ飼葉をとる秘訣だそうです。しかし近年、牛馬の激減や管理者の高齢化などが原因で、管理が放棄されたり、火入れだけになったりと採草地の管理法が変わってきています。

私たちのグループで調査してみると、伝統的管理を行っている採草地に比べて、放棄地や火入れのみの草地では、植物(特に広葉草本)が減り、開花数も花に訪れるチョウ類の多様性も少ないことがわかってきました。現在では、伝統的な採草地はほとんど見られず、開花する植物もチョウも減り始めています。先人が見出した管理法がなぜ植物や昆虫を増やしてきたのか温故知新の精神で学び、後の世代の人に開田高原の花野を残すために、何ができるのか考えていきたいと思っています。

(うしまる あつし/神戸大学人間発達環境学研究所教授)

### Contents

【巻頭言】人がつくりあげた花野が残る開田高原	1	【特集2】信州の生物多様性 ～連携と協働に向けて～	6
【特集1】信州の気候変動～現状と将来予測、そして適応～	2	①信州の自然の恵みを伝統文化から知る	7
①長野県の気候変化の実態と将来予測、その対策	3	②改訂版レッドリストが示す生物多様性の現状	8
②高山植生の変化を通してみたライチョウの将来	4	【報告①】夏の施設公開 2015 フォトレポート	9
③市民参加調査「信州・温暖化ウオッチャーズ」	5	【報告②】「自然史王国」信州を歩く	10
		新スタッフから	11
		【お知らせ】平成27年度のこれからの催し	12